

【小施策評価(平成30年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	子ども青少年課	
施策	2	子ども・子育て、若者への支援	評価 責任者	佐久山 久美子	内線 691-6411
小施策	2-5	困難を抱えた子ども・若者の支援	評価 シート 作成者	加藤 勝	内線 691-6412

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
少子化、核家族化などにより、子ども・若者を取り巻く環境は大きく変化し、ニートやひきこもりなどが増加しているため、困難を抱えた子ども・若者が自立するための支援を行う必要がある。		不登校、ニート、ひきこもりなど、社会生活を営む上で困難を抱えた子ども・若者を支援する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
若者		困難を抱えた若者が自立できる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標①	単 位	目指す方向	成 果 点	⇒	成果の要因分析
子ども・若者に関する相談回数(少年相談、(仮称)子ども・若者相談)	回	↗			
当初値 (H25)	27				
R1目標値	100				
R6目標値	100				
			・青少年相談員による相談対応件数が若干増加し増加し、困難を抱えた子ども・若者の支援を行うことができた。	⇒	・平成29年度以降、本市の子ども・若者に関する相談窓口を一元化したことを契機に、相談機能を持つ庁内関係部署や関係機関と、積極的な情報共有に努めているため。
			問 題 点	⇒	問題の要因分析
			・不登校、引きこもりなど、困難を抱えた子ども・若者は増加傾向にあると認められるが、子ども・若者に関する相談件数は目標値に対して未だ少ない状況にある。	⇒	・子ども・若者に関する相談機関であることの周知が足りない。

今後の方向性(令和元年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
★ 子ども家庭総合支援センター等の関係部署と連携し、積極的に訪問活動を行うなど相談対応を強化する。	
★ 令和元年度は、市子ども・若者育成支援計画の中間見直しの時期に当たることから、関係機関等の意見を聴きながら、重要度や深刻度が増している課題への取組強化策等を計画に盛り込む。	